



サンゴ移植の問題点を指摘する
大久保奈弥准教授=22日、名護
市・港区公民館

【名護】サンゴの移植に詳しい東京経済大学の大久保奈弥准教授（生物学）が22日、名護市内で講演し、名護市辺野古の新基地建設に伴い、沖縄防衛局が進めているサンゴ移植の問題点を指摘した。「環境監視等委員会の研究者の発言は科学的根拠に欠けており、防

衛省にお墨付きを与えるだけの存在になっている」と批判した。

大久保さんは、国の環境監視委の研究者2人はサンゴの移植に関する論文の実績がなく、「その分野の有識者とは言えない」と強調。2018年5月の同委員会で「ハマサンゴに関しては案外夏場でも移植可能ではないかと思う」との研究者の発言を根拠に、9群体が同年夏に移植されたとし、問題視した。

その後5群体が死滅や消失したことを挙げ、「科学的根拠がない発言をし、結果的に半分以上のサンゴを死

なせてしまった研究者の罪は重い」と追及した。

同年11月の委員会が移植を「成功」と評価したことには「数年」数十年かけて長期的な観察が必要だが、それをせず数カ月で判断するのはおかしい。私なら移植は失敗だと判断する」と述べた。

大久保さんは同日午前、大浦湾に潜り、今年移植されたサンゴの様子を視察した。白化している群体もあつたという。

商業施設

中部4市町村

県広域ワクチン 新型コロナウイルスワクチンの接種加速化で、県は23、24日の両日、サンエーの浦添西海岸パルコシティと那覇メインプレイスで広域ワクチン接種センターの開設を始めた。白化している群もあつたという。

【中部】北中城村、うるま市、沖縄市、北谷町は11月5～7日の3日間、北中城村のイオンモール沖縄ライカムで4市町村合同の新型コロナウイルスのワクチ

とはない。移植を埋め立て工事の環境保全措置とすべきではない」とくぎを刺した。

「研究者発言 根拠欠く」

サンゴ移植で大久保准教授講演

辺野古 環境監視委を批判

サンエー2店舗
予約を受け付け

県広域ワクチン

新型コロナウイルスワクチンの接種加速化で、県は23、24日の両日、サンエーの浦添西海岸パルコシティと那覇メインプレイスで広域ワクチン接種センターの開設を始めた。白化している群もあつたという。